

和歌山だよい

平成25年 2月号



大島のスイセン（串本町）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P11
3. お知らせ…………… P12
4. ふるさと歳時記…………… P13



「『ほんまかいな』と『なぜどうして』」

総選挙が昨年末にありました。新しい政権には、日本がふらふらしないようなしっかりした政策運営を期待したいと思います。それまでの政権与党が大敗したのは、前回の選挙の時のバラ色の約束が果たせなかったのはけしからんと言う国民の声が強かったからだというのがマスコミの論調でした。

しかし、今回の選挙でも、またしても、威勢の良いかけ声が政党や候補者からどんどん唱えられていたような気がします。あたかも政策や構想のファッションショーのように。

しかし、政治は本当はそうではいけません。唱えられた政策や構想の美しさを競うのではなく、本当に大事なものは、現実にはその政策を実施して人々を現実に幸せに出来るかどうかです。間違った事をするとなんが不幸になります。しかも、科学の実験と違って、やってみて間違ったらやり直したらよいというものではありません。国の信用が失墜し、安全が脅かされ、失業が増え、生活が苦しくなり、弱い人々がもっと泣きます。いっぺんやらせてみてからでは遅いのです。

我々は、選挙の時唱えられる公約を「ほんまかいな」と見抜かなければなりません。では見抜くにはどうしたらよいのでしょうか。私は「なぜどうして」を考えることにしています。「なぜそんな政策が実現可能なんだ。」「その時に逆にこういう不都合が起きると思うけれど、それをどうして克服するんだ。」などと。

そのためには、我々全員がいつも政治に関心を持って、かつ世の実態はどうなっているか、世の仕組みはどうなっているかについて勉強をし続けなければならないと思います。選ぶ時もそうですが、選んだ後も政治家に丸投げしないで、常に全員が考え続ける必要があると思います。県政もそうです。すべての県民の皆さんがいつも「なぜどうして」の視点で県政を見つめておられることを覚悟しながら県政を運営したいと思います。



1/22 定例記者会見にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

● 平成24年度「和歌山県文化表彰式」が開催されました。

- ・1月15日、「平成24年度和歌山県文化表彰式」が県庁の正庁で開催されました。
- ・式典では仁坂知事から受賞者に賞状と徽章、副賞が授与されました。知事は、「受賞者の皆様は、活動の分野も活動の拠点も様々だが、本県はもとより、わが国の文化の向上発展に尽くして来られた方々」とその功績を讃えました。
- ・受賞者を代表して文化功労賞を受賞した歌手の古都清乃さんは「名誉ある賞をいただき本当にありがとうございます。受賞を機になお一層努力と精進をまいります。」と挨拶しました。
- ・また、ケガのため表彰式を欠席した文化賞の東京大学辻省次教授からは、「自然豊かな紀南で、多くの友人、素晴らしい先生方に恵まれ、のびのびと育てて頂いたことが人生での大きな支え。この賞を励みに、より一層の努力を続けてまいります」とコメントが寄せられました。
- ・今年度より、受賞者の業績を広く知っていただくために、3月6日から11日まで、和歌山市の県民交流プラザ和歌山ビッグ愛において6名の方々を紹介する功績パネルの展示を行うほか、併せて、受賞者による講演会やコンサートなども開催されます。
- ・詳細については、後日ホームページ(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/index.html>)に掲載予定となっておりますので、ご覧ください。

文化表彰受賞者（50音順、敬称略）

○文化賞

辻 省次（東京大学教授 医学者）、
パーキンソン病など神経難病研究の第一人者として活躍

○文化功労賞

古都清乃（歌手）

長年に渡り歌手として和歌山の広報に貢献

中瀬喜陽（郷土史研究家・南方熊楠研究者）

長年に渡り南方熊楠の顕彰や俳句の指導などに貢献

○文化奨励賞

池下章裕（スペースアートクリエイター）、

小惑星探査機「はやぶさ」など宇宙イラスト制作で活躍

北浦恒人（作曲家）、

作曲、編曲、合唱指揮活動などで幅広く活躍

清水由朗（日本画家）

数多くの受賞や個展の開催など幅広く活躍



● 県民文化会館がリニューアルオープン

・昭和45年に会館した和歌山県民文化会館は、建設から40年が経過し、長寿命化と利用者の安全性、利便性を図るため、平成23年4月より、全館を休館し耐震化工事が進められてきました。この度、その工事が完了。装いも新たに、リニューアルオープンすることとなりました。



・今回の工事では、耐震補強のほか、太陽光発電の導入、大ホールへのエレベーター設置などによるバリアフリー対策、さらには、特設展示室の新設や小ホールの座席シートを幅広いものへの交換などを行い、利用する人にとって、より安全に、より快適で使い易い施設へと生まれ変わりました。

・3月30日からリニューアルオープンの記念イベントが下記のとおり開催されますので、新しくなった「けんぶん」にぜひ足を運んでみて下さい。

・詳細については、後日ホームページ(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/022100/index.html>)に掲載予定となっておりますので、ご覧ください。

リニューアル・オープン 記念イベント

○ リニューアル・オープン 記念コンサート (入場無料 要入場整理券)

平成25年(2013年)3月30日(土) 開演15:00(予定) <大ホール>

出演 杉谷昭子(ピアニスト)
木乃下真市(津軽三味線奏者)
和歌山児童合唱団
寺岡清高(指揮)
大阪交響楽団
ゲスト司会 岡本 玲(わかやまパンダ大使)

○ 清水達三日本画展 (入場無料)

<展示室>

平成25年(2013年)3月30日(土)~4月3日(水)

10:00~17:00(最終日は16:00まで)

○ 映画上映&トークショー (500円/1日券)

<小ホール>

平成25年(2013年)3月30日(土) 東陽一監督

13:00~ トークショー

14:00~ 『絵の中のぼくの村』

16:15~ 『わたしのグランパ』

平成25年(2013年)3月31日(日) SABU監督

13:00~ トークショー

14:00~ 『うさぎドロップ』

16:15~ 『ポストマンブルース』

○ まんが家スペシャルインタビュー

<大会議室等>

(入場無料 要整理券 各日先着100名)

平成25年(2013年)3月30日(土) 14:00~ 田村由美先生

平成25年(2013年)3月31日(日) 14:00~ 助野嘉昭先生

※両日とも、田村由美先生と助野嘉昭先生の複製原画展&アニメの上映もあります。

○ 坂本冬美コンサート (有料)

<大ホール>

平成25年(2013年)4月1日(月) 開演 14:30・18:30

平成25年(2013年)4月2日(火) 開演 13:30

※ 主催 : タニガワ企画

●「ふるさと祭り東京2012」に今年も「わかやま横丁」を出展！！

・1月12日～20日、東京ドームで開催された「ふるさと祭り東京2013」に、「わかやま横丁」を出展しました。

・「ふるさと祭り東京」は、県産品を首都圏の消費者にPRする絶好の機会であり、今年は、12業者が出展。梅干やみかんをはじめ、ジュースや、めはり寿司など自慢の味が出揃いました。

・さらに、横丁内には「プレミア和歌山」や「ふるさと和歌山わいわい市場」を紹介するコーナーも設けられ、和歌山の多彩な食の魅力をPRしました。

・1月13日は、「和歌山県の日」と銘打って場内でイベントを実施しました。今年は「おいしい！健康わかやま」のPRを全面に打ち出し、先着300名に梅の景品や県産農産物の機能性ガイドブックなどをプレゼント。さらに、ふるさとステージでは、仁坂知事と和歌山県出身の書画家田中太山さん、和歌山パンダ大使の岡本玲さんによるトークショーが開催されました。

・知事は「和歌山県は、果実も海の幸も豊富。食材が持つ健康面への効果を実証し、皆様にお示しして、安心して食べていただきたい。」岡本さんは「空気がきれいで、世界遺産もある和歌山は魅力いっぱいです。私も大好きな和歌山のみかんはすごく美味しいので、是非ご賞味下さい。」田中さんは「四季を楽しめる和歌山は、いつ行っても見どころ盛りだくさんです。是非お越しくださいね。」とそれぞれ、来場者に向けて和歌山を大いにPR。

・その後、毎年好評を博しているマグロ解体ショーが行われました。今年も黒潮市場の和泉圭紀さんの見事な包丁捌きが、観客を魅了し、マグロの刺身が振る舞われました。

・また、和歌山県ふるさと大使の小西博之さんも応援に駆けつけ、来場者に和歌山の魅力をPRして、「わかやま横丁」のブース全体を盛り上げてくれました。

・土曜や日曜には通行もままならないほどで、開催期間中を通してわかやま横丁は多くの来場者の熱気に包まれていました。



(出店事業者一覧)

- みかんジュース、山椒：有田川町観光協会
- 梅干：梅光園ワールド商会(株)
- 梅酒：(株)酒のかまくら
- 梅干、梅関連商品：(株)トノハタ
- 和菓子：(株)きたかわ商店
- めはり寿司、さば寿司：横田観光(有)
- 唐揚げ、コロッケ：(有)松牛
- 梅干：梅干のさらキ
- みかん等青果：和歌山県農業協同組合連合会
- 押し寿司、笹寿司：北畑商店(有田川町)
- 梅干：紀州梅干うめとも
- みかんジュース：株式会社伊藤農園

※プレミア和歌山ホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/premierwakayama/>

※ふるさと和歌山わいわい市場ホームページ

<http://www.wakayamaken.jp/>

● 首都圏記紀シンポジウムが開催されました。

・1月27日、東京の銀座ブロッサムにおいて、「首都圏記紀シンポジウム」が開催されました。

・このシンポジウムは、古事記が完成して1300年が経った今、改めて、その歴史性、文化性、国際性などを見つめ直そうというもので、奈良県が主催し、和歌山、三重、島根、宮崎の各県が協力。基調講演やコンサートに続いて、各県の知事が出席して、「神話的風土としての連帯」と題したシンポジウムが行われました。

・シンポジウムでは、5県の知事がそれぞれ古事記ゆかりの地を紹介し、地域の魅力をPRしました。

・仁坂知事は、古事記の中の「神武東征」の話を取り上げ、一行が現在の和歌山市に上陸した後、海上に出て熊野（現在の新宮市）に上陸し、大和へと至る行程をたどりながら、ゆかりのある場所や伝説の人物を通じ、神話世界における和歌山の魅力を東京の皆さんに紹介しました。

・また、1300年のときを経て、古事記で結ばれた関係県が、今後も連携を深めて行くことも確認しました。

・古事記に登場する和歌山の話や記紀ゆかりの地については、先月号でもご紹介しましたわかやま観光情報のホームページ内の「わかやま記紀の旅」に詳しく掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



● 外国特派員協会で「和歌山ナイト」イベントを開催！！

・1月28日、東京の日本外国特派員協会「ペン&クイルダイニングルーム」において、和歌山県の食や観光の魅力をPRする「和歌山ナイト」イベントを開催しました。

・イベントは、マグロの解体ショーで幕開け、大きなマグロが見事に捌かれていく様子に参加者は、釘付けになっていました。

・続いて、仁坂知事がスライドを使いながら、本県の食や観光を紹介。知事は「青い空、青い海、青い川、緑の山、温泉に、果物に、海産物に、古い文化と温かい“おもてなし”が待っています。」と英語で和歌山の魅力を大いにPRしました。

・その後、鏡開きが行われ、ビュッフェがオープン。ペン&クイルダイニングルームの小林総料理長によるイノブタや紀州うめどり、釜揚げしらすなど、和歌山の食材を使った料理が並び、その中には、県が海外向けに研究中の梅干し風味のバーガー「紀州梅バーガー」の一皿も。また、県産の日本酒や梅酒のアルコールや果実ジュースなどのソフトドリンクのコーナーやさらにはご当地スイーツ「わかやまポンチ」をライブで、作るコーナーも設けられ、レストラン内は和歌山一色となりました。

・また、2月4日～28日まで同協会のレストランフェアも開催され、期間中

トでも登場した料理が提供されます。（レストランは会員のみ利用可能。）

・和歌山県では、今後も、様々な機会を通して、食や観光のPRを行い、和歌山ファンの獲得に努めていく予定です。



● 水源を守るため、無許可伐採、無届伐採の監視を強化します。

・近年、外国資本による森林の買収事例が発生する中、北海道他の3団体では、水源地域の保全を目的に、土地売買の契約の事前届出などを規定する条例が制定されています。

・しかし、このような条例による事前届出だけでは完全ではありません。県民の貴重な財産である森林を守り水源を守るためには、森林の無秩序な伐採を監視し、森林の荒廃、水源かん養機能が低下してしまうことを防ぐ必要があります。

・昨年4月には、改正森林法が施行され、1ヘクタール未満の森林の所有権移転も届け出が必要となり、また、無届伐採に対する規制も強化されました。

・和歌山県では、森林の無許可伐採・無届伐採の防止に向けた森林関係法令の周知徹底とともに、伐採の監視強化を図っています。特に、この1月からは、保安林の伐採現場には、「伐採許可証旗」（青色）、普通林の伐採現場には「伐採適合証旗」（赤色）又は「計画認定証旗」（緑色）の掲示することとし、これらの旗を掲示していない伐採現場を見かけたら、県や市町村に通報してもらうよう、周知を図ることにしました。

・これらの取り組みを徹底させ、貴重な水源地である森林の保全に努めていきます。



● 「企業の森」に新たに1団体が参画決定！！

・1月15日、長野県、千葉県を中心に森林保全活動を展開している特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所が、「企業の森」事業に新たに、参画することとなり、県庁で調印式を行いました。

・同研究所による「熊野・木霊の森」は、田辺市本宮町上切原の山林約2.8ヘクタールで、今年10月頃より、間伐を実施し、以降5年間にわたって森林保全活動を行います。活動場所は、世界遺産の「紀伊山地の霊場と参詣道」に隣接するエリアで、「文化的景観」の保全にも寄与します。

・今回の森のライフスタイル研究所で、「企業の森」への参画数は58企業・団体、活動場所は59箇所となります。



● 企業と連携した地域振興～ミニソーラー事業～を実施！！

・全国初となる「ミニソーラー事業」が海草郡紀美野町地内の遊休施設において行うことが決定しました。

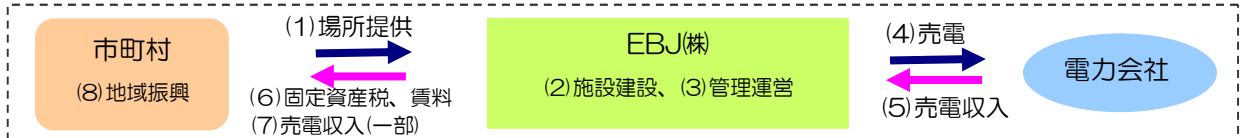
・この事業は、和歌山県が、再生可能エネルギーの売電収入を地域振興に活用するため、大阪ガスの子会社であるエナジーバンクジャパン株式会社（本社：大阪市 以下「EBJ(株)」）と新たなソーラー事業の仕組みについて協議を重ねてきた結果、モデル事業として実施に至ったものです。

・EBJ(株)が事業主体となり、紀美野町が土地を提供。施設の建設から、管理、売電まで、すべて、EBJ(株)が行い、紀美野町には賃料と固定資産税に加えて、売電収入の一部が支払われる仕組みになっています。このような小規模のミニソーラー事業を企業が行うというのは全国初となります。

・建設されるのは、年間発電量約11万キロワット（約30世帯分の年間消費量に相当）のミニソーラーで、このような小規模タイプのものはメガソーラーと異なり小さな面積での発電が可能で、遊休施設の有効活用にも繋がる新たな振興策として期待が寄せられています。

・操業開始は今年7月の予定です。

【事業のスキーム(イメージ図)】



● 県内最大級メガソーラーが完成

・2月1日、和歌山市のノーリツ鋼機が本社敷地内に建設を進めていた大規模太陽光発電所（メガソーラー）が完成し、記念式典が行われました。

・この発電所は「ソーラーパワーステーション和歌山」と名付けられ、約2.9ヘクタールの敷地に7000枚近くの太陽光パネルを設置。年間の発電量は230万キロワットで、一般家庭約600世帯分の年間使用電力量に相当し、出力は県内最大級となります。

・式典には、仁坂知事も出席し、挨拶で、今回、太陽光発電モジュールの部材に、恵和株式会社（本社：大阪市）の御坊市にある工場で製造されたシートが使われていることに触れ、「県内の工場で作られた製品が里帰りして、新たな産業の創出に繋がることは素晴らしい」と述べ、県内最大級のメガソーラーの完成を祝いました。



● メタンハイドレートの賦存状況予備調査を実施

・1月31日、和歌山県は、表層型も含めたメタンハイドレートの存在を確認するための予備調査を、実施しました。

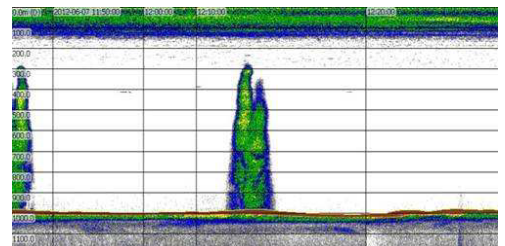
・メタンハイドレートは、天然ガスの主成分であるメタンを水の分子が取り囲んだ物質で、低温高圧の海底下や凍土下に存在し、「燃える氷」とも呼ばれます。次世代のエネルギー資源としても期待されており、既に日本海側では、10府県が協力して調査が計画されています。

・今回は、株式会社独立総合研究所に調査を委託し、県の漁業調査船「きのくに」を使用し、同船に搭載する魚群探知機により、和歌山県沖において、海中のメタンブルーム（※）の存在を調べました。

・今回収集したデータは、委託先で精査され、後日その結果が報告されます。存在が確認された場合は、国や関係機関に対して、詳細な分布調査や開発促進を要望していく予定です。

※メタンブルーム

海底から立ちのぼるメタンガスの気泡のこと。メタンブルームはメタンハイドレートの良い目印となる。



メタンブルーム観測画像

提供：(株)独立総合研究所

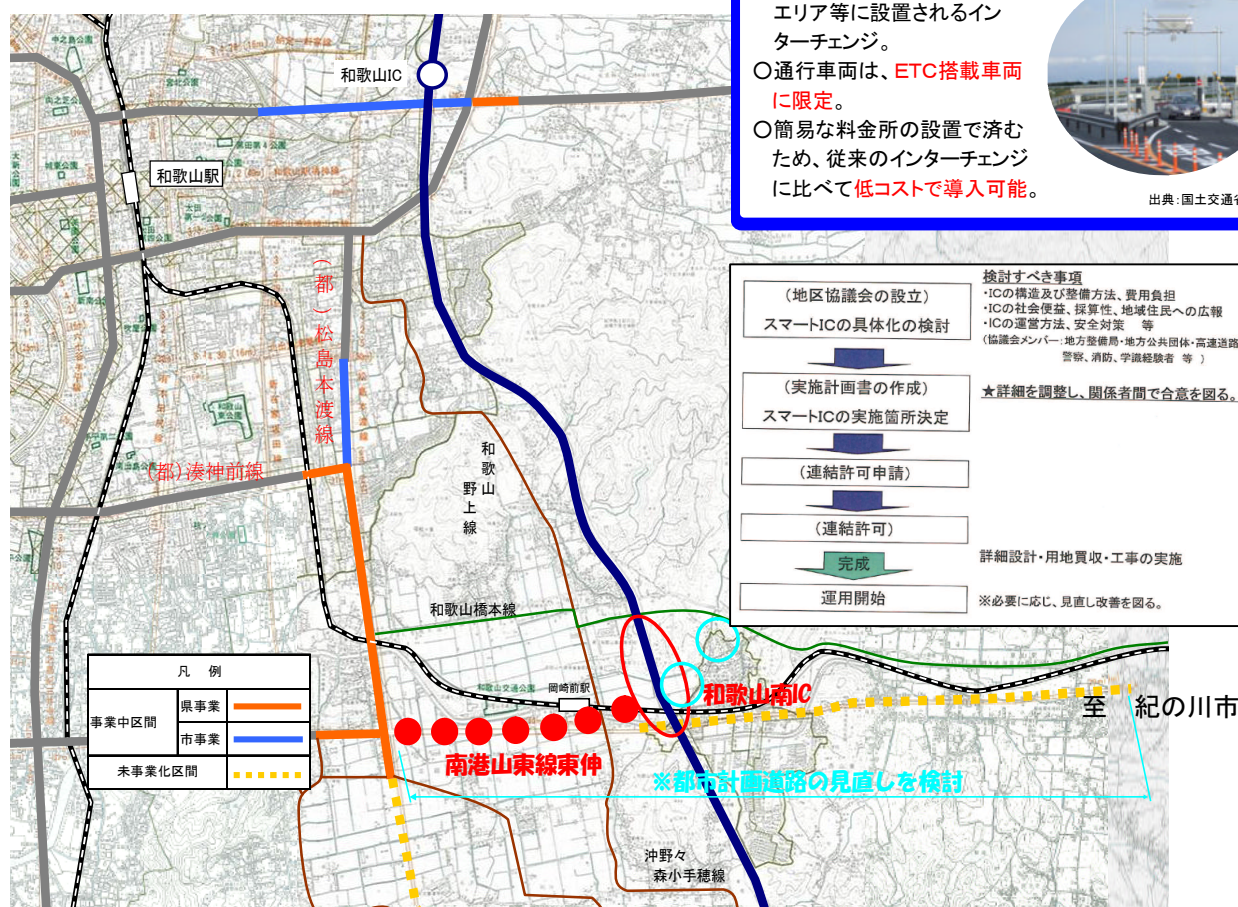
● 和歌山南インターチェンジ（仮称）の建設に向けて

・阪和自動車道（仮称）和歌山南インターチェンジについては、これまで種々構想が出されていましたが、この度、和歌山県が主体となって、スマートインターチェンジとして整備することとし、都市計画道路南港山東線の東に向けた延伸と合わせて将来的な幹線道路ネットワークを形成することとなりました。

・今後、国や西日本高速道路株式会社、警察、関係自治体などで構成する地区協議会を設立し、インターチェンジの構造や整備方法、費用負担、及び社会便益や採算性など、スマートインターチェンジの具体化を検討します。

・年度内にも地区協議会において合意を得た上で実施計画書を作成し、その後、速やかに連結許可申請に向けた準備を進めます。

○概略設置位置



● 「国内観光活性化フォーラム」 来年は和歌山で開催！！

・1月23日、群馬県前橋市で全国旅行業協会主催による「国内観光活性化フォーラム I N群馬」が開催されました。

・このフォーラムは国内旅行業者が中心となり日本各地の観光資源を国内外にPRすることを目的として、毎年開催されているもので、講演やパネルディスカッションのほか、各地の観光PRブースも設けられ、大勢の来場者で賑わいました。

・第10回目となる来年の大会は和歌山で開催されることが決定しており、今年の大会には仁坂知事も出席。次回の開催地を代表して「皆さんの来県を心よりお待ちしております」と歓迎の挨拶を行いました。

・「国内観光活性化フォーラム I N和歌山」は来年2月に開催予定です。

● 紀伊半島大水害復旧・復興状況について

・和歌山県では、平成23年9月の紀伊半島大水害からの早期復旧・復興のため、「和歌山県復旧・復興アクションプログラム」を策定し、各対策について具体的な目標を定め、全庁一丸となって取り組んで来ました。

・この度、平成24年12月末現在の様々な分野の進捗状況を取りまとめました。土木施設の本格復旧については、道路工事が、12月末で70%以上が完了するなど、「24年度中に95%の完成」という目標に向かって、順調に推移しています。

短期対策（平成23年度中に集中投入する対策）

＜応急復旧＞

- ・道路や河川、上下水道施設の応急復旧については一部通行止め道路を除き完了。
- ・鉄道各線は、23年末に全線復旧済み。路線バスについても、24年7月熊野交通(株)瀨八丁玉置口線の運行再開により全線復旧済み
- ・災害廃棄物については、24年9月上旬をもって、全市町村で処理を完了。

＜くらしの再建＞

- ・住宅の再建支援については、被災者生活再建支援法の支援に加え、県独自の上乘せ支援を実施（交付申請件数264件、158,231千円）
- ・義援金については、24年3月末で募集終了。累計12,505件、総額9億6,759万948円を受付。市町村に配分済み。

＜医療・福祉の復旧＞

- ・医療機関や社会福祉施設は1施設を除き再開。（那智勝浦町の保育施設1施設についても、来年度から再開予定）

＜産業振興＞

- ・中小企業について、融資制度や経営相談の相談窓口の設置、特別相談会を実施。また、「災害対策資金」による融資を開始。
- ・農家・畜産業者の経営支援のため、原則無利子の緊急融資を実施
- ・畜産業について、特に被害の大きい施設を中心に新たな支援策による事業再建や経営安定化支援を実施
- ・林業について、林業、木材産業改善資金の相談対応を実施。今後は新たな支援策による、林業者、森林組合、木材加工業者の早期の事業再開や経営維持を支援。
- ・水産業について、被災業者からの相談対応、被災した組合施設の早期復旧と被災漁業者の早期事業再開を支援（被害の大きかった日高川漁協の共同利用施設は平成24年4月に復旧工事終了）

中期対策（平成24年度中に完了を目指す対策）

＜公共土木施設等の本格的な復旧＞

- ・観光地の復旧に向けた「災害復興のための観光振興アクションプログラム」を23年度末で完了。24年度は「観光振興アクションプログラム2012」を策定し、「復旧、復興から挑戦へ」を合言葉に観光振興に取り組む。
- ・道路、河川及び砂防施設、港湾・海岸の被災箇所については、災害査定を終了。砂防施設、港湾・海岸はすべて工事着手済み。道路、河川も98%以上工事着手済み。
- ・農地、林道、山地災害についても災害査定を終了し、順次工事着手中。
- ・農地災害については、被災箇所の査定を傾斜20度を超える農地の災害復旧事業対応について、国へ要望活動を実施、平成23年12月28日政令改正。

＜学校施設等の復旧・復興＞

- ・公立学校は24年12月末までに41施設中40施設について復旧済み
- ・公立社会体育施設は、24年12月末までに、55施設41施設について復旧完了

＜文化財の復旧・復興＞

- ・熊野那智大社は土砂撤去を完了し、現在裏山の崩落部分の復旧作業中。
- ・那智大滝：本格的な復旧修景事業施工中。

＜洪水・治水対策の強化＞

- ・県と関西電力(株)はダムの利水容量及び殿山ダムの有効活用について、24年5月に協定を締結し、実施要領に基づく運用を24年6月より実施
- ・電源開発(株)は、学識者を含む検討会を設置し、ダム操作、新宮川水系に対する情報提供等に関する現状確認と改善点について中間報告を取りまとめ、これに基づくダム運用の改善策をさくいていし、24年6月から運用を開始

・なお、進捗状況の詳細については、和歌山県のホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/kikikanri/typhoon/>

● 国体 オフィシャルスポンサー・オフィシャルサプライヤーに感謝状を贈呈

オフィシャルスポンサー

- ・1月15日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルスポンサーとして決定した株式会社湊組への、感謝状贈呈式が知事室において行われました。
- ・贈呈式では、株式会社湊組の笹本昌克代表取締役から、仁坂知事へ協賛金ボード（目録）が手渡されました。
- ・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。
- ・いただきました協賛金は、紀の国わかやま国体紀の国わかやま大会の広報活動等に活用させていただきます。



オフィシャルサプライヤー

- ・2月1日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルサプライヤーとして決定した株式会社南北と株式会社西本への、感謝状贈呈式が知事室において行われました。
- ・オフィシャルサプライヤーは100万円相当以上の物品等を提供や貸与していただく企業で、株式会社南北からは歓迎のぼり、株式会社西本からは看板などが提供されます。
- ・贈呈式では、南北の樫畑直尚代表取締役と西本の峠泰行代表取締役社長から、仁坂知事へ目録が手渡されました。
- ・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。
- ・提供いただきました物品は、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の広報活動等に活用させていただきます。



● きいちゃん募金グッズ（ぬいぐるみ・炬火バージョン）を販売開始！！

- ・紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会実行委員会では、大会マスコット「きいちゃん」の募金付きぬいぐるみの販売をしていましたが、今回、炬火を手にしたきいちゃんぬいぐるみの販売を開始しました。
- ・このぬいぐるみは素材に和歌山県産の亚克力ボアを使用し、価格は2,800円（税込）で、和歌山県内のオークワーやエバグリーンなどで取り扱っています。ぬいぐるみの代金は全額が募金となり、両大会の運営経費として活用させていただきます。
- ・取扱店舗の詳細については下記のホームページをご覧ください。

<http://www.wakayama2015.jp/common/bokin/bokingoods>



●祝！！たま駅長就任6周年

・1月5日、「たま駅長就任6周年記念式典」が和歌山電鐵貴志川線の「貴志駅」で、盛大に開催されました。

・「たま駅長」は和歌山電鐵の常務執行役員であり、和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）の称号を持ち、さらには“和歌山県観光まねき大明神”を委嘱されるなど、今や日本で最も有名な猫であると同時に最も有名な駅長と言えます。

・去年も、保険会社のテレビCMに出演し、その活躍は止まるところを知りません。

・たまは現在13歳になりますが今回の式典では、就任6周年は猫年齢に換算すると勤続30年の永年勤続となり、その間の功績が認められ、「社長代理」に昇進する人事が発表され、和歌山電鐵小嶋光信社長から辞令と社長代理の名鑑と社長代理印が授与されました。

・また、たま駅長唯一の直属の部下であるニタマ駅長代理も式典に出席。昇進のお祝いに花カツオの束を贈りました。

・式典に出席した仁坂知事は「小嶋社長の知恵、たま駅長の魅力が貴志川線を支えている。沿線住民の方々には今以上に貴志川線をご利用いただき、社長代理となった「たまちゃん」のより一層の活躍を期待しています。」と述べ、たまのスーパー昇進を祝いました。

・貴志川線では「チャレンジ250万人 あと4回多く乗って永続させようキャンペーン」を実施中です。皆様もぜひ電車に乗って、「たま」と「ニタマ」に会いに来て下さい。

・これからも、「たま」と「ニタマ」で、和歌山に多くの人々を招き入れてくれることを期待しています。



●近畿連合和歌山県人会「新年互礼会」開催！！

・1月20日、「平成25年近畿連合和歌山県人会新年互礼会」が、堺市のホテル・アゴーラ・リージェンシー堺で、京都・大阪・堺・神戸の県人会会員約80名が出席し、盛大に開催されました。

・代表幹事である堺和歌山県人会保田会長による歓迎のあいさつの後、仁坂知事より台風12号災害からの復旧状況をはじめ観光、国体、経済情勢など和歌山県政の最新トピックスを盛り込んだ挨拶がなされました。また、地元堺の竹山市長も来賓として駆けつけていただきました。

・佐竹大阪和歌山県人会会長の乾杯の後、会は一気に盛り上がりとともに、民謡河内音頭やカラオケ披露で明るく和やかな新春のひとときとなりました。

・また、会場内には、恒例の田辺市による梅酒の試飲コーナーや有田市による「ほねく」や有田ミカンの試食コーナー等が設けられ、大好評でした。





今年も「ジビエウィーク」が始まります！！

・「わかやまジビエってこんなにおいしい！」その魅力を多くの消費者の方に伝えたく、今年も「ジビエウィーク」を開催します。

開催期間— 2月1日(金)～2月28日(木)の1ヶ月間

(今年度は、前回の期間を2週間延長して開催する「拡大版」です。)

・ジビエウィークとは、食品営業許可を得た県内の施設で処理された野生鳥獣肉（イノシシ・シカ）を、県内の料理店、レストランなどで、期間限定で、和食、洋食、フレンチ、イタリアンなど様々なジャンルのジビエ料理を提供するイベントです。

昨年度に引き続き、2回目の開催となります。

・ジビエウィーク参加店舗

料理店など52店舗（前回より12店舗増）

精肉店8店舗

※参加店舗などの詳細を書いたパンフレットが下記のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/category/nousui.html#skiplink1>



いっぺん喰ってみよう！
わかもやま

ジビエウィーク

GibierWeek 2013

2013.2/1～2/28

和歌山県内の各協賛飲食店及び宿泊施設

“わかやまジビエ”ってこんなにいいってご存知でした？
その魅力を伝えてくれるお店が立ち上がりました。今までの概念を覆す、数々の出会いがあります！
それが“ジビエウィーク”です。

ジビエを食べて豪華賞品GET!!

1等 ホテルディナー付宿泊券(ペア) 各1名様
2等 旅行券(10,000円分) 3名様
3等 参加各飲食店協賛賞品 125名様

“わかやまジビエ”とは...
わかやまジビエとは、県内は限定的に狩猟が行われる中で、その肉を加工して提供される肉です。肉質は柔らかく、味は独特で、肉の旨みと肉の繊維が感じられます。

～ふるさと歳時記 特別編 東京の中にある和歌山 六義園 を訪ねて～

六義園とは

・六義園（リクギエンと読みます。）は、東京都文京区本駒込にあり、徳川五代将軍・徳川綱吉の側用人・柳沢吉保が、自らの下屋敷として造営した大名庭園です。1695年に加賀藩の旧下屋敷跡地を綱吉から拝領した柳沢は、平坦な武蔵野の一隅に池を掘り、山を築き、千川上水の水を引いて大泉水にし、7年という歳月をかけて、回遊式築山泉水庭園を造り上げました。

・庭園は明治時代に入って三菱財閥の創業者である岩崎弥太郎が購入。その後、昭和13年に東京市に寄付されて一般公開されました。関東大震災や戦争の影響も受けず、造園当時の面影を遺したまま、昭和28年には国の特別名勝に指定され、現在に至っています。

六義園と和歌山

・北村季吟から「古今伝授」を受けた柳沢吉保は、和歌の造詣が深く、紀貫之が『古今和歌集』の序文に書いた「六義」（むくさ）という和歌の六つの基調を表す語から「六義園」と命名し、庭園は和歌の聖地である「和歌浦」の風景を再現しています。

・園内の手前にある池は紀ノ川で、向こう岸は吹上の浜、池の中の島には和歌浦の妹山・脊山があり、また和歌浦の海岸にもある蓬莱岩もあり、庭園の中で最も高い丘（35m）は、有間の皇子の墓がある海南の藤白（代）峠です。その他、芦辺や藤波（並）などの和歌山の地名もあり、園内にある渡月橋は、京都の嵐山ではなく、和歌浦を歌った和歌<和歌のうら 芦辺の田鶴の鳴声に 夜わたる月の 影そさひしき>から来た名前です。

・六義園では、土日・祝日に限り、11時と14時に、ボランティアによる庭園ガイドが行われています。入口から入ると中に小さな木の門があり、ガイドの方が大きく腕を広げて「ここから先は和歌山です」という一言で、案内が始まります。

・ガイドの方の中には、実際の和歌浦に憧れて、何度も和歌山に足を運ばれた方もいるそうです。

・これから、春に向かうと枝垂れ桜やツツジが園内を彩ります。ぜひ、皆さんも「東京の中にある小さな和歌山」を訪れてみて下さい。



六義園には

JR・東京メトロ南北線「駒込」(N14)下車 徒歩 7 分

都営地下鉄三田線「千石」(I14)下車 徒歩 10 分

～編集後記～

立春が過ぎ、暦の上では「春」を迎えたとは言え、まだまだ、寒い毎日が続いていますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、和歌山県文化表彰の話題を取り上げました。この賞は昭和39年に始まり、25年度で半世紀を迎える歴史ある賞で、歴代の受賞者も有吉佐和子、中上健次といった錚々たる人々が名前を連ねています。

和歌山人は、進取の気性に富むといわれ、これまでも各界で新たな道を切り拓く優秀な人材を輩出してきましたが、今回、文化賞を受賞された辻省次東京大学教授は神経難病研究の第一人者で世界的権威でありますし、功労賞、奨励賞を受賞された方々も各分野で幅広く活躍されております。辻教授は受賞に際して「自然豊かな紀南でのびのびと育ったことが人生の支え」というコメントを寄せられていますが、医学界の第一線で活躍する先生のバックボーンが、ふるさと和歌山であるというのは、嬉しいと同時に、誇らしいことでもあります。

さて、受験シーズンもいよいよ本番を迎えました。本県では、大学進学とともに、ふるさとを離れる人が多く、都会での刺激的な生活を夢見ている若者もたくさんいると思います。和歌山にいと、海も山も川も身近にあるのが当たり前で、その良さに気付くこともあまりありませんが、外に出て、特に都会の喧噪の中でふるさとを見つめ直すと、その素晴らしさにハッとさせられると言う声をよく聞きます。

受験生の皆さんにも、この和歌山で生まれ育ったことを誇りに、新たなステージで大きく羽ばたいてほしいと思うと同時に、ふるさとのすばらしさをいつまでも忘れないでほしいと思います。

和歌山では梅林もオープンし、春の足音は確実に近づいています。

和歌山だよりをお読みいただいております皆様の中にもご身内に受験生がいる方々もいらっしゃると思いますが、試験に臨んでいる受験生をはじめ、関係の方々、また春を待つすべての人に素晴らしい春が訪れることを願っています。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等をお願いします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)2月 NO.58

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022